

# 令和4年度(2022年度)セタシジミ漁場別産卵前肥満状況

井戸本純一

## 1. 目的

産卵前のセタシジミの肥満度は、単位親貝あたりの産卵量を左右し、近年その変動が大きいことから資源変動の原因の一つとなっている可能性がある。そこで、2008年度以降、琵琶湖北湖一円の漁場において産卵期にあたる5月から7月の禁漁期間中に調査で採集したセタシジミの肥満度を測定している。

## 2. 方法

2022年6月16日および17日に琵琶湖北湖一円の主要7漁場を含む16漁場において、実際のシジミ漁業で用いられる漁船および貝桁網で採捕したセタシジミを用いた。各漁場で3回繰り返した曳網のうち、採捕数がもっとも多かった回のサンプルから殻長15mm以上の個体を12個体抽出し、空気が入らないように注意して表面の水分を取り除き、貝全体の重量を測定した。軟体部を取り出して105℃で24時間乾燥させ、重量を0.1mg単位まで測定した。貝殻は自然乾燥させてから重量を測定した。肥満度は貝殻内部の水を含む生体の全重量に対する軟体部の乾燥重量とした。また、地域や個体によって異なる貝殻の影響を排除する目的で貝殻の重量を除いた全重量に対する軟体部乾燥重量を固形分率とした。

## 3. 結果

各漁場における親貝の肥満度を右表に示した。肥満度(固形分率)は、全体では前年の平均3.3%(9.8%)に対して3.4%(10.0%)と同等であった。地域別では東岸で3.7%(10.7%)から3.6%(10.6%)、西岸で2.6%(7.7%)から2.8%(8.5%)となり、西岸漁場でやや上昇した。

主要7漁場における肥満度の推移をみると、

平均は3.6%で前年と変わらなかったが、漁場ごとの増減傾向がおおむね一致する例年と異なり、漁場によって増減が分かれた(下図)。また、前年が2.0%と著しく低かった今西が2.8%まで回復した一方、前年4.3%ともっとも高かった沖島西が3.5%まで低下するなど、漁場によって増減幅も大きかった。

表 2022年の産卵直前における親貝肥満度

	漁場	水深(m)	肥満度(%)	固形分率(%)	
東岸	今西	12.6	2.8	9.1	
	長浜	8.5	3.4	10.8	
	磯	8.1	3.2	9.0	
	松原	4.1	4.5	12.8	
	石寺	8.8	3.7	10.6	
	新海	9.0	3.1	8.7	
	沖島東	7.4	4.4	12.2	
	沖島西	13.3	3.5	11.0	
	沖島南西	10.6	3.8	11.8	
	牧	8.4	3.9	11.3	
西岸	菖蒲	2.5	3.5	9.7	
	海津	13.3	2.3	6.3	
	針江	7.9	2.4	7.2	
	鴨川	13.9	3.0	9.2	
	高島	11.7	3.5	11.0	
	近江舞子	12.3	2.9	8.9	
	全体	9.5	3.4	10.0	
	平均	東岸漁場	8.5	3.6	10.6
	西岸漁場	11.8	2.8	8.5	

※ゴシック体は主要漁場

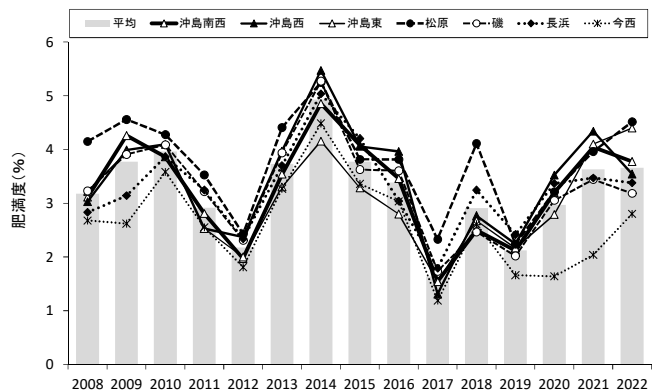


図 主要漁場における平均および漁場別の肥満度の推移。

肥満度(%) = 貝の中身(軟体部)の乾燥重量 / 貝全体の重量(貝殻および内部の水を含む) × 100  
 本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。